

# 日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月11日（金）

活動隊員：花房八智代、河原千都、高取充祥

## 1. 活動日時

令和6年1月11日（木）0:00～24:00（交代制で勤務）

## 2. 活動場所

珠洲市立 大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

避難所使用者数 194 人、自宅避難 155 人

## 3. 被害状況（NHK 情報：1月11日14:00 現在）

人的被害：石川県死者 206 名（うち珠洲市 91 人）

住家被害：建物全壊 1765 棟、半壊 36 棟、一部損壊 149 棟、床上浸水6棟、床下浸水5棟

## 4. 天候

晴れのち曇り、最高気温 8°C 最低気温 -2°C

## 5. 活動の実際

深夜 巡視、トイレ介助、相談対応、要支援者・感染者ラウンド

6:30 看護師内での本日の活動方針についてのミーティング

7:00 要配慮者、感染者ラウンド、トイレ介助など被災者へ直接ケア

自衛隊医療班、PWJ 医療班の往診に備え、全被災者希望者確認・リスト化  
退所者確認（2F 避難者 9 人、3F 避難者 3 名）

8:00 珠洲市生活サポート部会との zoom ミーティング繋がらず

8:40 体育館内の熱発者対応、部屋調整、診療準備

9:00 換気・体操

9:20 自衛隊医療班、PWJ 医療班到着診療開始、介助

10:40 1 名避難者入所・部屋調整、広域避難希望者再確認

11:30 診察終了、避難者不在の処方箋持ち帰り・後日持参について整理後避難所リーダーに報告

13:45 傷病者対応（軽症）

14:00 避難所アセスメント（ラビットアセスメント）入力、避難所体育館避難者名ヒヤリング依頼、未完了の教室避難者ヒヤリング開始。

・ラビットアセスメント入力により、県危機管理課より、避難所ヒヤリングがあり。通信機器（インターネット回線スターリンク）が12日より導入決定

17:00 珠洲市生活サポート部会本部（珠洲市保健医療福祉調整本部）より zoom 環境の問題があり、ミーティングは不参加で良い方針となり、以後本部からの緊急時の連絡は日本災害看護学会統括に連絡する方向となる

17:30 行政派遣職員 1 名熱発、ゾーニング実施

前任の地元看護師がコロナ陽性にてゾーニング実施

18:15 急性混乱症状のある高齢者が、BP230 台にて珠洲市保健医療福祉調整本部に相談し対応、夜間も経過観察出来る様に、体育館に観察室を設営

18:40 docomo 一部通信復帰、au 不通

19:00 ボランティアの被災者熱発あり、ゾーニング実施

20:00 大谷小中学校本部にてミーティング、感染拡大防止策の提案

20:30～交代で夜間見守り、高血圧者の経過観察実施

## 6. 考察

【健康面】本日、医療チームの巡回があり、内服切れや残数の少ない被災者の処方、体調不調者の診察が出来たことで被災者の体調悪化や不安の一部が改善された。しかし、夜間トイレに行かれる方も多いことから足音による不眠も考えられ、健康状態の悪化への予防のためにもプライバシーの確保し休息できる場所の確保が必要であり、依然として避難所環境改善の課題は継続している。

【情報】環境の改善のための市との連絡について通信障害があり、タイムリーに対応出来ず、避難所内の現状を市や県と共有出来ていないことが明らかになった。通信障害は、本部との情報共有の妨げになり支援が遅れる要因となる。先遣隊の避難所アセスメント入力により、県からのネット機器のスターリング設置につながったことでシステム活用の重要性を認識した。情報の環境改善により、本部との情報共有が円滑になる一方で、被災者の遠方とのコミュニティ復活や精神的な不安が少しでも軽減されたと考える。

【感染予防】体育館内で3人の熱発者が相次いだ。その要因として現在断水、停電、下水道等のライフラインの途絶により、手洗いが出来無い状態があげられる。今後蔓延の予防策として、手指消毒の指導や声かけなど啓発活動を行ないながら、生活環境を整えていく必要がある。

また、避難所では現在、室内土足、床寝となっている。避難所生活が長期化することで疲労やストレスでの免疫力の低下や血栓を作り循環器疾患の発症や感染などのリスクが高まっている。現在段ボールベッド、滑り止め個人用スリッパを申請中であり、物資が届き次第、感染予防を踏まえた避難所の配置換えや口腔を含めた身体の清潔を保てるケアや指導への介入が必要である。

## 7. 参考写真





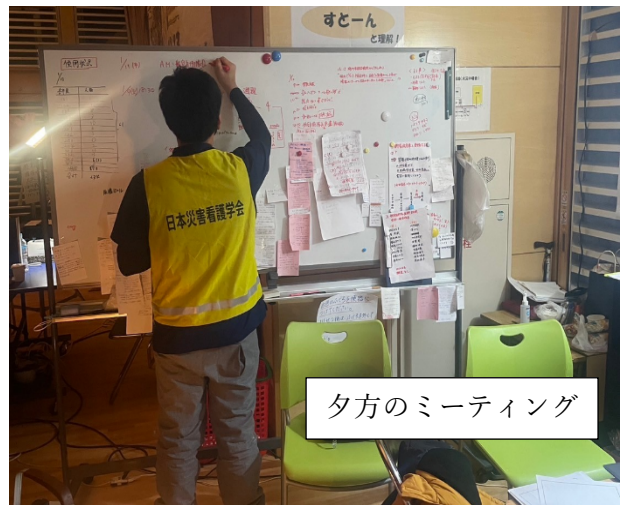
派遣医療2チームとの情報共有



臨時診察室の設営と診察風景



診察風景



夕方のミーティング